

国語シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 文学国語	3 単位	第 2 学年 《文系選択必修》	・『高等学校 文学国語』 (第一学習社)
学習の到達目標	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) ②深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)		
評価の観点	文学的な文章を通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。また、文体の特徴や修辞技法についても体系的に理解し、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。《知識・技能》 叙述をもとに内容・構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えるとともに、成立の背景や他の作品との関係を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。《思考力・判断力・表現力》 自らの力で主体的に本文を読み解き、内容や構成を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間 5 回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の 3 観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」 状況と判断されるもの 100%
- B : 「おおむね満足できる」 状況と判断されるもの 80%
- C : 「努力を要する」 状況と判断されるもの 60%
- D : 未提出, 未実施 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①山月記（中島敦）	○内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ○文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。 ○語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	使用教材：『高等学校 文学国語』、プリント
1 学期 期 末 考 査 ま で	①檸檬（梶井基次郎） ②真珠の耳飾りの少女（原田マハ）	○近代文学者の目を通した日本の伝統的な美意識に対し、理解を深めるとともに、その解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。 ○作品にまつわる自身の体験を、文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。 ○語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	使用教材：『高等学校 文学国語』、プリント
2 学期 中 間 考 査 ま で	①夏の花（原民喜）	○登場人物同士の関係や心情を把握しながら多角的に読み、戦争という事象の複雑さについて理解する。また、他者の記憶を語り継ぐ困難と意義とにふれる。 ○作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。 ○読書の意義と効用を理解する。	使用教材：『高等学校 文学国語』、プリント
2 学期 期 末 考 査 ま で	①こころ ②文学史	○近代日本文学の代表的な作品を読むことを通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 ○文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。 ○我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	使用教材：『高等学校 文学国語』、プリント

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①葉桜と魔笛（太宰治） ②棒（安部公房）	○さまざまな表現形式を持つ小説への理解を深め、多様な読みを発見する。展開や構造の特徴、寓意や表象などに着目し、作品を読み味わう。 ○作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。 ○読書の意義と効用を理解する。	使用教材：『高等学校 文学国語』、プリント
---	-----------------------------	---	-----------------------

【成績評価の概要について】
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100 点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ② 期末考査：100 点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ③ 平常点（授業内小テスト、提出課題等） ：50 点《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》 (2) 学期評定の算出方法 定期考査の素点合計 200 点に対し、平常点合計は 50 点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 定期考査の素点合計 500 点（5 回分）に対し、平常点合計は 125 点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。